

▼たねいもを植え、もみ殻を被せる児童（写真右）



「秦荘のやまいも」プランター&畑で栽培体験！

5月7日、秦荘東小学校の3年生が秦荘のやまいもプランター栽培体験に取り組みました。

この体験は、町の伝統野菜である「秦荘のやまいも」を、地元の子もたちにもっと身近に感じてもらうと、秦荘やまいも振興会が中心となって企画したものです。

児童たちは2人1組で協力しながら、プランターの土を耕し、手で穴をあけて種イモを植え、つるを巻き付けるための支柱を立て、最後にもみ殻を敷く作業まで一生懸命に取り組んでいました。

体験後には、「土に穴を開けるのが難しかったけど、植えるのは楽しかったです」「やまいもを早く食べたいです」といった声があがり、子どもたちの期待と喜びがあふれていました。

▼たねいもを植え、土をやさしく被せる生徒



びがあふれていました。

続いて5月12日には、愛知高等養護学校の2・3年生が秦荘のやまいも栽培体験に挑戦しました。

生徒たちは、学校の畑を使い、器具を使って土に深く穴を掘り、そこに砂を入れ、種イモを丁寧に植えていきました。

やまいも振興会の方は「やまいもは育てるのが難しい野菜です。今後は水やりと肥料の調整がとても重要になります。定期的に様子を見てあげてください」とアドバイスされました。

生徒たちは、「今年は去年よりたくさん植えたので大変でした」「できたやまいもはハンバーグにして食べてみたいです」と達成感を語っていました。

▼ダンボールコンポストを作る参加者（写真左）



生ごみを資源に。家庭から始めるエコライフ

5月17日、第3回ダンボールコンポスト教室が役場本庁舎で行われました。

当日は、NPO法人日本食品リサイクルネットワーク関西支部から、腐葉土や米ぬかを段ボール箱に入れ、かき混ぜることで、約3か月で堆肥として再利用できる仕組みを学びました。完成した堆肥は家庭菜園や鉢植えの土づくりに活用することができます。

参加者は、「毎日出る生ごみを自分の手で資源に変えられるのはうれしいです」「野菜以外にも、ラーメンのスープやみそ汁の残りなども入れることができると知り驚きました。早速家で取り組んでみたいです」と話していました。

地球にやさしい暮らし、まずは家庭から始めてみませんか？

▼協賛いただいた蔭山会長（写真左）



協賛をいただきました

5月22日、滋賀建機株式会社から、わたSHIGA輝く国スポ・障スポ愛荘町アーチェリー競技開催へ協賛いただき、のぼり旗200枚、クリアファイル1,500枚の668,000円相当をご提供いただきました。

同社の蔭山会長は「国体が初めて愛荘町で開催されたことを今も覚えています。ぜひ愛荘町で盛大に国スポ・障スポを開催していただき、素晴らしい大会だったと言われるように頑張ってください」と話され、有村町長から感謝状を受けられました。

協賛品は、2025年に開催される国スポ・障スポの機運醸成のために活用させていただきます。



▼三井住友海上火災保険株式会社佐藤支店長（写真左）



三井住友海上火災保険株式会社と協定を締結しました

5月19日、愛荘町は三井住友海上火災保険株式会社と「包括連携協定」および「損害調査結果の提供および利用に関する協定」を締結しました。

「包括連携協定」は、地域の暮らしや町が向き合う様々なテーマや取り組みに対し、同社が持つ知見や技術などを活かして支援いただくもので、スポーツの振興や脱炭素の取り組みなどについて、現在協議しています。

また、「損害調査結果の提供および利用に関する協定」は、建物の水害に係る同社の調査結果を町に提供いただくもので、町の災害対応業務を簡略化し、被害を受けた住民の方への迅速な復旧対応が可能となります。

今後、両者の連携を深めることで、愛荘町の魅力をさらに引き出し、住民の皆様が安心と活力を実感できるまちづくりを進めていきます。

▼高校生に見守られながらボールを投げる子ども



野球で交流！「2025 愛荘ボールパーク」

5月25日、「2025愛荘ボールパーク」が愛知高等学校体育館で開催され、町内の幼稚園児・保育園児、児童あわせて約100名が参加しました。

本イベントは、愛知川・秦荘両地区のスポーツ少年団が中心となり、野球の楽しさを広く伝えることを目的に、愛知高等学校野球部の協力のもと実施されました。当日は高校生たちが先生となり、野球が初めての子どもたちや、スポーツに興味を持つ子どもたちに、野球の魅力をやさしく伝えました。

子どもたちは、高校生のアドバイスを受けながら、キャッチボールやTボール、レクリエーションを楽しみながら道具の扱い方やルールを学びました。また、中学生もスタッフとして参加し、イベント運営をサポートしました。

町内の園児から小・中・高校生まで、幅広い年代が野球を通して交流し、笑顔あふれる一日となりました。

▼協賛いただいた中嶋代表取締役（写真左）



協賛をいただきました

5月7日、株式会社明宝から、わたSHIGA輝く国スポ・障スポ愛荘町アーチェリー競技開催へ協賛いただき、ワンタッチテント4張の614,000円相当をご提供いただきました。

同社の中嶋代表取締役は「愛荘町で国スポ・障スポが開催されるということで、地域の企業として何かできればと思い今回協賛を申し出ました。今後も地域の企業として、地元へ根付いて貢献していきます」と話され、有村町長から感謝状を受けられました。

協賛品は、2025年に開催される国スポ・障スポの機運醸成のために活用させていただきます。

▼ドローンに手を振る児童たち



みんなでつくる「えちひが」人文字ドローン撮影

5月12日、愛知川東小学校では、創立50周年を記念したドローン撮影が行われました。

児童たちは、黄色や青色などのポリ袋を身にまとい、校舎のまわりを手をつないで囲んだり、愛知川東小学校の愛称である「えちひが」の文字を人文字で作ったりして、全校が協力して撮影に取り組みました。

また、地域の方がドローンを使って上空から撮影されると、児童たちはドローンに向かって「おーい！こっちだよー！」と元気いっぱい手を振り、空に向かって笑顔を届けていました。

撮影された映像は、今年11月1日に予定されている創立50周年記念式典にて、お披露目される予定です。